

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第11回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・協議事項（公開）

（1）令和4年度、5年度の会長及び副会長の選任について

（2）自主的審議事項

「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進について」

・その他（公開）

3 開催日時

令和4年3月17日（木）午後6時30分から午後8時20分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、金澤信夫、君波豊（会長）、佐藤忠治（副会長）

新保輝松、関清、土屋郁夫、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之、

細井雅明、山岸敏幸（14名中14名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、

平野市民生活・福祉グループ長、水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【柳澤次長】

・会議の開会を宣言

・上越市域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【君波豊会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：俵木一松委員に依頼

【君波豊会長】

それでは、協議事項（１）「令和４年度、５年度の会長及び副会長の選任について」に入る。令和２年度第１回の地域協議会において、会長及び副会長を選任した。その際、任期は２年と確認をした。令和４年度からの会長、副会長の選任について、選任方法をどうするか。前回は、「自薦」「他薦」で名前が挙がった委員から選出した。他にいい方法がなければ、「自薦」「他薦」でまず候補者を挙げていただき、その中から選出したいがどうか。

（一同了承）

まず会長から決めたい。自薦でも他薦でも意見はないか。

【佐藤忠治副課長】

今まで皆さんから協力をいただきながら、副会長を務めさせていただいた。昨年１１月に新市長が誕生し、地域予算、地域事業を行いたいと３月議会で提案されている。地域予算、地域事業を皆さんと考えていきたいと思うので会長に立候補したいと思う。合併前に「合併は住民自身が決めるべきだ。」ということで、町に住民投票条例があり、ぜひ実施してほしいと多くの仲間と運動したが叶わなかった。その後、町長が辞任し、議員が２人欠員のままであったため、町会議員に立候補し、合併しても町民の意見を市政に反映させるべきだということで、地域協議会制度や様々な問題について議会で審議してきた関係で第１期地域協議会にも立候補してきた。地域協議会制度、自治区制度を住民の皆さんと一緒に改革する方向に歩んでいきたいと思い手を挙げた。

【君波豊会長】

他に立候補、推薦はないか。

（一同無し）

他に無いようであるので、立候補いただいた佐藤副会長を次期会長ということで承認いただける方は挙手願う。

（９人挙手）

９人の方から賛同いただいたので、令和４年度、５年度会長は佐藤副会長から担って

いただく。よろしくお願ひしたい。

続いて副会長を選任したい。新会長の意向もあるかと思うがいかがか。自薦、他薦があれば発言いただきたい。

【佐藤忠治副会長】

私は、俵木晴之委員を推薦したい。上越市防災士会大潟支部での活動や潟町3区の町内会長でもあり、大潟区について精通していて積極的な意見を発言されていた。まちづくり大潟や町内会長協議会の代表など2つの組織を担うということは大変であり、そういった点では地域協議会1本でやっていただければいいと思っている。事前に事務局と会長、副会長で打合せし、会議の方法、テーマ、どのように進めるかなど協議しながら運営していくのでそれほどに難しいことではないと思う。

【君波豊会長】

佐藤副会長が俵木晴之委員を推薦した。他にあるか。

【俵木晴之委員】

私は、町内会長のほか上越防災士会大潟支部の事務局もやっているし、市の地域安全支援員や大潟の子どもを育てる会の副会長もやっている。そのうえで、地域協議会の副会長という重要な役を受けるのは難しい。

【君波豊会長】

次期会長から名前が挙がったので、コンビを組むという意味でお願いできないか。私も以前は副会長として会長を支えてきたが、それほど負荷は掛からないのでいかがか。

【俵木晴之委員】

私は山岸敏幸委員を推薦したい。

【山岸敏幸委員】

会長が「ぜひ。」と言っているので俵木委員に受けてほしい。

【君波豊会長】

皆さんからの後ろ盾も必要だ。俵木晴之委員に副会長をお願いすることに賛成の委員は拍手願う。

(一同拍手)

では、令和4年度からは佐藤会長、俵木晴之副会長という体制で大潟区地域協議会を引っ張っていただくといいと思う。よろしくお願ひする。新市長の方針は、地域の独自予算を

作る。また、議会では第7次総合計画を作るときに地区のまちづくり計画を作れと言っているようである。公の施設の関係も、まもなく後期の7年に近づいてきて、いろいろな話が具体化してくるため難しい舵取りが必要となってくる。お二人に引っ張っていただきたい。

次に(2)自主的審議事項「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用について」に入る。前回の地域協議会で、私と佐藤副会長、五十嵐郁代委員、土屋委員の4人でこれまでに出たアイデア等を整理して方向性を出すまとめをすることになり、3月10日に話し合いをした。結果を土屋委員から説明していただく。

【土屋郁夫委員】

資料No.1により説明。

【五十嵐郁代委員】

補足する。人魚館の本来の目的、皆さんが思っているイメージは、スポーツ、健康、温泉が挙がると思う。効果やイメージが、住民、住民以外の来館者にどれだけ浸透しているのかを考えると温泉、プールと単独で認知はされているが、それをどのように健康増進の施設として、憩いの場として、人魚館の存在があるのかを知ってもらえるようにイメージを作っていくことも大事である。単に意見として「こうすればいい。」だけではなく、みんなの人魚館と思えるような、利用者の思いが形になるような人魚館にしていくことが一番ではないという意見が挙がった。地域協議会として私たちがどこまでできるのか。単なる提言書であれば、「このようにしたらどうか。」でいいと思うが、前期に観光協会に提言書を提出したが、その後どうなったのか。さっぱり形にはなっていない。地域協議会と人魚館がどのような関係を作っていけるのかというところで、今回私たちがこれをまとめ上げる意味があると思っている。利用者が減ったことを追求することも一つの形にはなると思うが、いかにファンがついて、住民や来館者の人魚館となっていくのかというところの話し合いを続けていくことが必要であるという意見が出た。地域協議会の中でできることは、市長への提言や関係者のヒアリング等である。それも必要ではあるが、人魚館と地域の皆さん、来館者などの関係づくりに寄与するような提言書が必要ではないかとの意見があった。

【佐藤忠治副会長】

私も話し合いに参加していた。人魚館には発足当時から「人魚館応援隊」という組織

がある。利活用を促進するための組織である。会長はいるが、組織がなっていない。懇親会を1、2回やっただけである。応援隊を新しく創起することを人魚館に呼びかけたい。サポーターという形でファンクラブという組織名称。土屋委員から、「柏崎ファンクラブという組織があり、そこに加入していて施設等の企画運営に意見が言える。」という話があった。人魚館応援隊もそういう組織でなくてはならない。応援隊を創起するために、大潟区連絡会議で人魚館に相談をして組織を作り、花壇等の環境整備や季節ごとのイベントを人魚館と共に企画したらどうかという意見も出た。

【君波豊会長】

人魚館応援隊は、平成27年ころにできたと思う。当時は、全大潟区地域協議会委員が登録をしたが、長続きしなかった。大潟区連絡会議で協議をして、きちんとした組織を作る必要があると思う。皆さんから意見はないか。

【土屋郁夫委員】

いろいろな意見があるので、次回の地域協議会までに我々で何をやるのか等、優先することを決めていったらどうか。私が思ったのは、応援隊についてすぐにでも関係者を集め、その場を公開にして話をしたらどうか。希望する委員も参加したらいいと思う。もうひとつは、人魚館関係者と話をしないと始まらないと思う。その段取りを会長、副会長に決めていただきたい。方法は、皆さんから協議いただければいいと思う。私の中の優先順位は、応援隊の再編成を地域協議会として持ちかけるならその具体化と人魚館との話し合いである。

【新保輝松委員】

早急にやらなければならない部分の話もあったが、私はそんなに急ぐ必要はないと思う。まとめてもらったものの中から、減らすもの、増やすもの、肉付けするものを検討し、「これは実施しよう。」「これはできない。」などに仕分けして、できるものを進めていくのがいいと思う。急ぐことによってまとまりがなくなる気がする。これまで出た案を精査して、人魚館と話し合いすべきものは話をする、地域の意見を聞くものは聞くなどしたらよい。思いついたものからやっていくとまとまりがつかなくなると思う。

【細井雅明委員】

今回まとめてもらったものは地域協議会委員だけのまとめであって、市にお願いしたり、人魚館と話をする中で、地域住民の中での盛り上がりとなる必要があると思

う。これまで出た案の裏付けや肉付けをするためにワークショップなどを最初にやって意見合わせをすることと、地域協議会で人魚館を取り上げて協議していることは目にしていると思うが、地域住民の意識のレベル合わせであったり、皆で一緒に考えようという形にもっていくためにもワークショップをなるべく早く開催することが、地域協議会が独り歩きをしない方法であると思う。

【君波豊会長】

10日の話し合いでは、地域協議会としてやれるものを優先してやりながら、夏くらいまでに取り組めるものに取り組んでいこうという話も出ていた。その他に細井委員の意見のように他に依頼しなければならないもの、他の方の考えがどうであるかというベクトル合わせが必要であると思う。人魚館の皆さんとベクトル合わせをするときに、全員でやるべきかどうかという話も出た。

【細井雅明委員】

私が見たり、聞いた情報が正しければ、Jーホールディングスが解散するという。それが本当なら、Jーホールディングスと大潟地域活性化センターとの関連がどうなるのかということと、うみてらす名立のように競争入札で指定管理者が代わるような流れが人魚館にもあるのかどうか心配である。それによりせっかく協議してきたことに影響がある。

【君波豊会長】

上越タイムスにはっきりと掲載されていた。

【佐藤忠治副会長】

あれは、市議会での質問への市の答弁であった。

【関清委員】

ワークショップは必要である。人魚館でのこれまでの取り組み、アイデア、成果を明らかにしたい。これは以前も要求したが、具体的には出てきていない。我々も人魚館の年間の行事、営業活動を把握していない。ここがなかなか出てきていないということが、次の手の展望を具体的にイメージしにくい。ワークショップでは、区内の議員や小中高生にも聞いてみたい。以前、中学生が大潟町の発見ということで発表していた。彼らが、人魚館の存在を分かっているかわからない。中学生からも協力いただき意見をもらおうと新鮮である。地域協議会だよりの君波会長の記事で、「大潟区の宝、つどいの湯、健康づ

くり、憩いの場」というのは人魚館を端的に表しているスローガンだと感じた。これをタイトルにして、私たちは広めていくという概念で関心のある方たちに集まっていただくというスタンスがはっきりしていることが極めて大事である。誰に追及、訴求するかというところで気になった言葉は「健康づくり」でやはり同じことになる。その意味で言うと「人魚館は大湊区の宝ではないだろうか。」と呼びかけていくということが大事である。人魚館だけで言えば、人魚館の理念に沿ったものであってそのような活動の実態になっているかどうかの問題なわけである。働きかけても反応が無かったというのは結果論であって、その働きかけを実現するためにどうするかという問題の展開の仕方だろうと思う。他団体というのももう少しはっきりしたほうがいい。応援隊の名前が挙がったが、スポーツクラブやジムリーナなど活発に動いている団体は多くある。そこをいくつか構成メンバーとして挙げていく。何よりも人魚館の取り組みの成果を聞きたい。人魚館の活性化を通じて、今度は温泉街という知らせ方をしていき地域全体でどうかと理解していくのだと思う。人魚館というのは、お風呂とプールでイコール健康である。旅館というのは、憩いとか思い出づくり等に関係していき広がっていく。そういう里であるという概念づくりを図式化してみたらどうか。

【君波豊会長】

温泉街については、個人営業であり踏み込めない部分もある。人魚館が賑わえば相乗効果で温泉街も賑わう。サポーター等で人魚館の周りを綺麗にすれば、温泉街の皆さんも自分たちも綺麗にしなければというような連鎖反応が起こってくれるといいと思う。他団体というのは連携の中に一部出てきている。大湊区内の福祉施設、大湊水と森公園、まちづくり大湊などを多く含めていかなければならない。

【濁川清夏委員】

きれいにまとめていただいたので、これを人魚館の社長等に見てもらったらどうか。そのうえで人魚館側がどのように考えているか意見を聞きたい。資料の真ん中あたりに「赤いろうそくと人魚」というのも記載されているが、今年は小川未明の生誕140年で市も力を入れているので関連できればいいのではないかと。

【五十嵐郁代委員】

話がいろいろな方向に行っているので一旦まとめたい。話し合いの場を設けるといいう意見が多く出ている。その中でも、①一回でも人魚館と話し合ったほうがいいという案、

②中学生、議員、利用者などいろいろな人と顔合わせ、意識合わせをしながらワークショップをするという案、③もう少し大きな鵜の浜温泉、スポーツ関係団体などのまとまったところと話し合いをしたほうが良いという案、④そうではなく地域協議会の中でももう少し検討して、アイデアはたくさん出ているがもう少し精査したほうが良いのではないかと案の大きく分けて4つの案が出ている。それぞれ内容は違えど話し合いは必要というのが皆さんの共通意見である。難しいとは思いますがこの中から優先順位を決めないと話が進まない。

【中野幹根委員】

グループ討議のときはよかったが、深掘りしてくるとだんだん自分の意見がわからなくなってきた。まとめていただいた資料の右上にワークショップとあるが、最終的にはこのワークショップがベースなのかと思う。それが一番王道なのだと思う。ただ、見方を変えて、「誰に訴求する」という部分が良かったと思った。もっと簡単に、「誰にどんな訴えをすれば、もっと簡単に稼げるのか。」といった気がしてきた。その話をするのであれば、五十嵐郁代委員の言った①から②③④と順にやっていくのが良いと思う。

【五十嵐郁代委員】

資料をベースに話し合いをするが、どこで最初に話し合いをするか。

【山岸敏幸委員】

人魚館とは、社長だけとの話し合いだけでは駄目で、従業員の皆さんと意見交換をすることが必要だと思う。それと同時に応援隊というのは、人魚館の応援隊という協議をしないで、大潟の応援隊ということにしていくことが必要と感じた。新市長の方針で、今後各区に予算配分されるようであれば、それらを行政からも検討願ひ、大潟の応援隊、その一環として人魚館としていかないと、人魚館だけとなると狭すぎて前期のような形になってしまう可能性がある。「大潟、大好き。」という応援隊を組織する方法をとることによって、これらのアイデアが達成できると思う。素晴らしい資料を作ってもらって、これは財産である。これを生かしていくために、応援隊が大きな柱となればすべてに関係する。どんな形で行けるかは、ひとつの錦の御旗を作るべきと思う。

【佐藤忠治副会長】

応援隊よりもファンクラブを作るほうが良いと思う。

【山岸敏幸委員】

同じことである。意識も変わってくる

【佐藤忠治副会長】

そうすると、前期に観光協会に意見を出したことも含まれるし、大湊水と森公園もそうであるし、大湊の様々な課題についても話し合える。大湊区連絡会議と違い、個人でも加入でき自由に意見を言える。

【土屋郁夫委員】

記録が大事であり、そういうものがないと判断しようがない。記録やデータなどである。地域協議会は必ず会議録があるので、それを遡ればどういうことが話し合われて、どういうことをしてきたかが分かるが、応援隊のように規約も何もなく亡霊のようになってしまうとよくない。柏崎のものはしっかりしていて市が組織を持っていて、完全に市に移行する予定だ。立ち消えになると困るので、そのあたりを市から知恵を授かる等して工夫してやる必要がある。

【山岸敏幸委員】

仕事でもそうだが、基本的には猿真似がいい。柏崎ファンクラブがいいものならそれを真似てみて自分たちのノウハウに変えていく。真似してみなければ前に出ないのでまずやってみる。そこから大湊独自のものが出来上がる。

【君波豊会長】

柏崎ファンクラブは、市が事務局を持っているのか。

【土屋郁夫委員】

これまでは違っていたが、今後市に移すと新聞に出ていた。

【君波豊会長】

まちづくりフォーラムを市が主催して、中郷区や柿崎区において30人規模で開催された。その時に柏崎市でまちづくり活動をしている方の講演があったが、そういった方が関係していると思う。

【土屋郁夫委員】

柏崎ファンクラブは、シティセールス推進協議会ということで、市の推進計画に基づいて市民を巻き込んでやってきた。団体も相当数あるが、今後は市が中心になって運営していくようだ。大湊で言えば、いろいろな団体が入ってみんなで盛り上げるという感

じになるのではないか。

【佐藤忠治副会長】

頸北地区地域協議会委員合同研修会で頸城区の委員が話していたが、頸城区では地域を元気にするために必要な提案事業を使い観光協会を設立した。地域協議会で協議し、様々な団体が集まり協議して、車と事務所を構える費用などを事業化して行った。その後、大池小池のキャンプ場の駐車場整備にも取り組んだ。そういった点では、ファンクラブの協議をして、来年度に地域事業として出すか、地域を元気にするために必要な提案事業で予算化を提案する方法もいいと思う。事務所をどこに置くかなども検討が必要だ。

【君波豊会長】

核となる振興会のまちづくり大渦がある。核はある。大渦ファンクラブを設立するための予算をいただき事務局体制を強化するという方法もある。

【山岸敏幸委員】

それでいいと思う。基本は振興会が担うべきだと思うし、そこに諸団体から協力してもらおう。予算を持っている団体もあるので出せる部分もあると思う。ファンクラブを作ろうということには大義がある。大義があればすべてできる。地域協議会長を中心に旗を振って、最初は賛同者が少なくてもいい。少しずつ増えていくことによって当初の目的が達成できる。そうなれば市もほっとくわけにはいなくなる。市の予算を当てにしてこれを進めるのはよくない。予算は後からついてくると思う。

【君波豊会長】

市長は、ソフト面で良い企画であれば予算をつけると言っている。

【山岸敏幸委員】

動くことが先である。「市の予算がもらえるからやろう。」では駄目である。私たちが動いて、ファンクラブの皆さんが会費を持ち寄りながらも頑張っている姿を見せることが大切である。

【君波豊会長】

そういう意味では、我々がこうやっていることをPRして、区の皆さんにも施設を守ろうとしていることを見てもらうことも大切だと思う。

【五十嵐公子委員】

人魚館にこの資料を見ていただく話から、いきなり大潟ファンクラブを作る話になって、どちらを優先して考えればいいのか分からない状態である。大潟ファンクラブは地域協議会が中心になって作るわけではなく後押しという形である。それはそれで進めたとして、今私たちがやらなければいけないのは人魚館のことであり、最初に戻って従業員も含めた人魚館の皆さんと話し合いをすることに重点を置きたい。

【君波豊会長】

ファンクラブについては時間が掛かると思う。アイデアが出たので大潟区連絡会議あたりで話をしたい。

【俵木晴之委員】

いい資料を作っていただいた。中身はもう少し煮詰める必要があるが、これを基に人魚館の皆さんの意見を聞きながらどうしていくかと協議するのが優先だと思う。そこからでないと先に進まないと思う。

【俵木一松委員】

今の協議の中で、サポーターやファンクラブは必要だと思うが、現在の人魚館の状況を聞かなければいけないと思う。聞いたうえで、我々のアイデアと合致するものを優先的に取り組むといいと思う。人魚館利用者の意見も踏まえて、我々の案と、利用者の意見と経営側の意見をすり合わせて考えていくのが良い。

【佐藤忠治副会長】

関委員が言われたが、地域協議会だよりで会長が書いた「大潟区の宝、つどいの湯、健康づくり、憩いの場」というキャッチフレーズを資料に付け加えると分かりやすくなる。そういう理念で造られたはずだ。

【関清委員】

大潟では、過去に全国的なワークショップを開催している。これの記憶をたどって、そこに参加した人たちが、このまちの特性、個性をどのように位置付けたかを調べられないか。

【五十嵐郁代委員】

大潟町時代に町のシンボルを作ろうとして、まちづくりの委員会のようなものを作り、そこに関係各所の方が参加していた。そこに向けて外部からワークショップを進めるフ

アシリテーターを何人か呼んだ。私はその中のひとりであった。その時にシンボルを作ったり、町の総合計画のようなものを作ったりした。それは残っていると思う。

【関清委員】

私も1回だけ参加した。その時には人魚館はあったのか。

【五十嵐郁代委員】

人魚館ができるか、できないかといった頃であった。まちづくりのワークショップはその前後も長いことやっていた。町の人だけのときもあれば、外部から人を呼んでやることもあった。ワークショップは長いこと相当数やっている。

【佐藤忠治副会長】

私も参加したことがある。その時は、大潟町全体を公園化しようというテーマであり、外部から人が来ていた。

【君波豊会長】

ファンクラブをどのように作るか。柏崎を参考にするのもいいし、まちづくりフォーラムに来た方も柏崎ファンクラブに関わっていると思うので話を聞くのもいいと思う。

今後の進め方について方向性を出していただきたい。

【五十嵐郁代委員】

人魚館の社長以下スタッフ全員と話をしたいという声が一番大きい。この資料を提示して感想を聞き、人魚館の実状を捉えてすり合わせるという意見が多いがそれでよいか。

(一同了承)

【佐藤忠治副会長】

次の地域協議会までに行ったほうがいい。

【君波豊会長】

スタッフ全員と話をするには時間的な配慮をしなければならない。

【佐藤忠治副会長】

その前に、出た意見を膨らませて、それを持って人魚館の社長に「地域協議会でこういった協議をしているので、人魚館の関係者と話し合いをしたいと思うがどうか。」と話をする。

【五十嵐郁代委員】

それだと地域協議会の中でもう少し検討して精査することになる。

【佐藤忠治副会長】

いや、4月中に人魚館の社長と会って「人魚館の皆さんと話し合いをしたいがどうか。」と確認する。

【五十嵐郁代委員】

ここまで出来上がっているので、話し合いに向かっていくことでいいと思うが皆さんどうか。

(一同了承)

【五十嵐郁代委員】

これで話し合いをして、出た意見とすり合わせて協議することを繰り返していくことになると思う。

【関清委員】

人魚館と我々との間で中核的な核を作ることがポイントになる。そこで、今度は関係団体と誰がそれを行うか、どういう方法でやるのかとなる。そこで合意がなければ終わりである。組織の中心を作らないといけない。

【五十嵐郁代委員】

まずは、地域協議会と人魚館が話をするというだけでよいか。

【関清委員】

はい。

【君波豊会長】

整理すると、まずはこの資料を人魚館に見てもらおうということか。

【五十嵐郁代委員】

そうである。2つのグループで話し合っただけのものをもとに人魚館の社長以下スタッフの皆さんと話し合いをして、「私たちはこう考えているが、実際に人魚館はどうなっているか。」と実情を伺ったうえで、さらに精査する。それを踏まえて、次の関係個所と話し合いをする。それを繰り返しながらまとめていくことになる。

【関清委員】

とりあえず人魚館が答えられるのは、様々なアイデアの中で食事、お土産、PR、イベント等であると思う。

【五十嵐公子委員】

それは話し合ってみないと分からない。

【山岸敏幸委員】

そうである。

【五十嵐郁代委員】

話し合ってみたら、人手が足りないので全部できませんとなる場合もある。それは話し合ってみないと分からない。

【関清委員】

こういったところで、彼らが何をやってきてどういった経験をもっているかである。

【俵木晴之委員】

社長にアポイントメントを取って、可能かどうかは別としてスタッフを集めていただいたときに資料を提出したらどうか。先に見せないでおくということだ。スタッフの生の声が聞きたい。

【五十嵐郁代委員】

先ほどは事前に資料を提出してという意見もあったが、どのような進め方をするのが一番いいのかである。

【君波豊会長】

私は、予備知識として資料を見てもらっておいてから意見交換の場を設けたほうが「これはすでにやっている。」とか「ここは、我々に任せておいてほしい。」という意見が出てきていいのではないかと思う。

【佐藤忠治副会長】

今回の地域協議会だよりの一面に自主的審議事項についての君波会長と五十嵐郁代委員の原稿を掲載した。資料と地域協議会だよりをもって人魚館に行く。今後、人魚館に地域協議会だよりを置かせてもらったらどうか。利用者にも地域協議会で協議していることを知らせることができる。また、アンケートを合わせて置くことによって利用者の声も聞くことができる。

【五十嵐郁代委員】

まとめる。地域協議会と人魚館の関係づくりというところで、話し合いの場を持つということで皆さんから多くの意見をいただいた。その中で、多くの委員からあがった意

見が、「人魚館と話し合いたい。我々が人魚館の実情をもう少し知ることも大事であり、社長以下スタッフ全員と話し合いをする。」ということであり優先的に行う。最終的には地域の皆さんとワークショップを開催することも大事であるが、人魚館の声を聞きつつ、その次にどこと話をしていけばいいかを地域協議会で検討しながら次の段階の話し合いに繋げていく。その繰り返しの中で、最終的にどのようなことがいいのか整理されていくと思う。今出ている意見の中には、人魚館の応援隊でなく大湊を丸ごと応援する組織が必要ではないかという部分で、身近な頸城区や柏崎市の例を参考にしつつ、どのように形にしていけばいいかを検討しながら進めていく。地域協議会の呼びかけではあるが、振興会や他団体を中心にしたファンクラブの設立を提案していく。このようにまとまったがいかがか。

【山岸敏幸委員】

いいと思う。

【五十嵐郁代委員】

まずは、人魚館の社長、スタッフとの話し合いである。

【君波豊会長】

まずは、人魚館に出向いて意向を確認したい。本件についてはこのような形で進めてよろしいか。

(一同了承)

次にその他に入る。私からお伝えする。以前、上越市議会総務常任委員会と地域協議会長の意見交換会の案内が来ていた。新型コロナウイルス感染症の関係で延期となっていたが、4月3日日曜日に開催されることになった。地域協議会の課題、地域活動支援事業の課題、地域自治区制度の課題等について各区地域協議会長の意見を聞きたいとのことである。出席するにあたり、地域協議会委員の声も拾ってきてくれとのことだが、時間的余裕がない。これまで、私と佐藤副会長は総務常任委員会のこの件についてずっと傍聴してきたので、どんな意見を言うか2人で相談したい。また「これだけは言ってほしい。」という意見があれば4月3日までに私か佐藤副会長に出していただきたい。そのように対応させてもらっていいか。

(一同了承)

ちなみに、今の総務常任委員会の議員の皆さんは、なぜ地域協議会が地域活動支援事

業について審査等するのかという考え方である。また、合併前上越市には地域協議会は必要ないという議員もいる。地域協議会をブロック制にするという意見も出ている。その中で各区の地域協議会長と意見交換したいということなので、私と佐藤副会長とで「これだけは言おう。」ということをもとめて臨みたいと思う。

【柳澤次長】

令和4年度第1回地域協議会であるが、町内会長協議会総会との兼ね合いもあり、通常より一週間早い4月21日木曜日午後6時30分から開催したいと考えているがいかがか。

【山岸敏幸委員】

当初決めた日を動かしてほしくない。みんなそのように動いているので、月ごとに代わってしまうと困る。3月のようにお願いされたときは仕方ない。

【君波豊会長】

大潟区の地域協議会は、最終週の木曜日ということで運営してきた。今回、会議が重なるとのことで一週間早めたいとの提案であったが、皆さんの都合が悪いということであれば最終週の木曜日ということとしたい。

【柳澤次長】

では調整させていただき、当初予定のとおり4月の最終木曜日である28日の午後6時30分からとする。

【佐藤忠治副会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線201、216）

E-mail：ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。